

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (017400782), 法人名 (有限会社オフィス石井), 事業所名 (メイハウスグループホーム), 所在地 (063-0022 札幌市西区平和2条6丁目1番5号), 自己評価作成日 (平成30年1月26日), 評価結果市町村受理日 (平成30年2月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人間らしく生きる場所、又共に生きるために、入居者、職員で共有理念に基づいたケアを行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2017\_02\_2\_kani=true&JigyosyoCd=0170400782-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年2月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の緑豊かな住宅地に建つ、利便性が良い2階建て1ユニットの事業所で、スーパー・コンビニ・公園・消防署・バス停等が近くにあり、広い敷地には、花壇・菜園・果樹園があり、ガーデニングや散歩を楽しむことが出来る住環境にある。事業所内は随所に工夫が見られ、玄関には、靴を履いたり脱いだりするときに便利なベンチを設置し、2階には、家族の訪問時にゆっくり話ができる談話室がある。1階のウッドデッキは、外気浴やティータイムに役立っており、壁紙は各居室毎に変え、それぞれ個性的な部屋づくりになっている。トイレには、もたれでも疲れにくく、背中が痛くなりにくい背もたれを採用している。管理者及び職員は、笑顔と豊かな経験で、利用者一人ひとりに合わせた理念に基づいた個別対応で、きめ細かな介護をし信頼関係と馴染みの関係の中で、共に過ごす日々を大切にしており、家族の信頼も厚い。体操・ゲーム・折り紙・散歩等、利用者が希望する楽しみ事の支援をしており、夏祭りや清掃等の町内会行事の参加もあり、地域での生活を実感できる活動を積極的に取り入れている。野鳥が訪れる自然環境の中、利用者をやさしく支えている、地域密着型事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe service outcomes like staff understanding, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざし独自の理念を作り、ホーム内に掲示し、スタッフ全員で理念に基づいたケアを行っている。	事業所独自の『介護理念』3項目と、『職員の心構え』4項目は、玄関と事務室に掲示しており、日々のケアサービスに反映されているか、常に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所から、畑で作った野菜を頂いたり、地域行事、お祭り等に参加している。	利用者と共に、町内清掃・夏祭り・西野神社祭などの地域行事に積極的に参加している。近隣住民とは散歩時に挨拶を交わし、新鮮野菜の差し入れがあり、日常的交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ、情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会等も参加してくれている。要望意見が出され、検討を行っている。	定期開催している運営推進会議では、利用者代表・家族代表・消防団員・地域包括支援センター職員等が出席し、事業所の状況・行事予定と報告・防災計画等を議題とし、事業所の運営に効果を上げている。	家族の参加が少ないのが現状である。開催日時を検討し、家族が興味を持つ議題を選び、行事と同日開催する等、一人でも多くの家族の参加が得られる工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは、定期の連絡会で相互の意見交換が行われている。適宜連絡を取っている。	事故報告等は市役所の担当窓口を持参して、行政のアドバイスを受けている。グループホーム連絡会に参加し、地域包括支援センターとも連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、職員の共通意識を図っている。	日中玄関は施錠せず、鍵をかけない暮らしを實踐している。勉強会やミーティングで具体的な行為について話をしている。身体不拘束に関しては重要事項説明書に明記している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、会議で話し合いをしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で、必要な利用者には、活用できる様に学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際は、ホーム内見学又は疑問点等を十分に話し合いを重ね、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の喜び、悲しみを共感し理解できる様に努めている。又外出、外泊も自由にできる様、家族の訪問等も自由になっている。	玄関入り口に『意見箱』を設置し、家族の来訪時には、積極的に話し合いの場を持っている。利用者の状況を職員が手書きした『お便り』を、月に一度家族に発送している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度職員会議及び研修を行い、職員の意見を十分に反映している。	定例開催する会議などで、職員の意見や提案を聞き入れている。また、運営者と個人面談もあり、積極的に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	親睦会等でスタッフの交流の場を大切にしながら、一人ひとりの得意な事を生かす場を作り、向上心を持たせ、元気のないスタッフには話を聞いたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場に於ける月一回の全体会議での研修、他機関の研修の参加、その他自己学習(資格取得等)の応援、又個々に必要と感じた時には個別に面談している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの管理者の集まりや、管理者会議への参加をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と会い、色々な話をする場を設けている。自宅へ、訪問し相談を受ける時もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた際は、必ず見学を勧め、来られない方は、電話での相談等、ゆっくりと話を聞くことにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状、家族等の聞き取り、必要な支援を提供できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、散歩、掃除等の活動において、スタッフと利用者が一緒に行う事を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常を、家族が来訪された時や電話等でお知らせしている。近況を伝え、こちらで一方的に解決するのではなく、ご家族と相談し問題解決している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お誕生会、行事等に本人の大切にしてきた方々をお誘いし、楽しんでいただいたりしている。ご家族にもご協力していただき、本人の行きたい所へ外出していただいている。	日本古来の風習や生活習慣を大切にし、事業所では、書初め・節分・七夕等を楽しんでいる。家族と利用者で初詣や墓参りに出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性等を考慮しながら、利用者同士の会話の話題提供に努め、見守りの中で、その場に応じた対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方も、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができる様に心掛けている。又、家族からの相談を受ける事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情等からその意思を推し測ったり、確認する様にし、意思疎通が困難な方には、本人の視点に立って話合っている。	センター方式を活用し、日頃の会話や表情・行動等から利用者の思いや意向の把握に努めている。また家族からも意見や要望を聞きながら、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族から聞き取りを行い、利用者の方は日々の生活の中、又ご家族来訪時に会話の中で聞き取れる様心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人に合った生活が送れる様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの日頃の関わりの中での思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ミーティングで職員全員で意見交換している。	定期的なモニタリングを行ない、利用者の変化や対応について家族・職員・看護師・医師と話し合い、利用者がより良く暮らせるための介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、日々の暮らしや様子を記録している。勤務開始前には、申し送りをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の日々の変化する状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、意見交換を行っている。年二回は防災訓練をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医師、病院へ受診している。基本的には、家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が同行している。	協力病院医師は、2週間に一度訪問診療に訪れている。看護師が配置され、利用者の健康を支え、医療機関とは24時間の医療連携体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、週一回の勤務なので、それ以外は電話で常に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは密に情報交換し相談している。職員も面談に行き、利用者の心の安定に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化の場合、対応について説明、都度家族と話し合っている。又、本人の意向をふまえた上、ホームでできる事できない事の説明を行い、納得した上で医療との連携を図っている。	医療連携体制のもと、『重度化した場合の対応に係る指針』と『看取り介護に関する同意書』を整備し、入居時から利用者や家族等と話し合いを行っており、看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、ヒヤリハット報告書を活用、サービス改善に努めている。年二回防災訓練を実施している。救急救命講習を受講、緊急マニュアルを掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に、消防の方に指導を受け、消火実演を体験している。	消防署の協力のもと、年2回防災訓練を実施し、避難経路の確認や、実際に消火器を使用した訓練も行われている。水・食料品・毛布等を備蓄している。	停電時や寒冷地の寒さ対策として、ポータブルストーブやカセットコンロなどの備蓄を、法人本部と検討することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーに配慮した支援を心掛けている。	利用者の尊厳を大切にしたい理念を作成している。一人ひとりの誇りや特性に応じた声かけや、気持ちの受け止めに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方には表情を読み取り、生活の中で本人の好み等を考慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重するよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向で決めており、職員は見守り手伝う様にしている。美容室は、訪問美容室を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等できるだけ利用者が職員と一緒に行動し、食事と一緒にしている。利用者の嗜好を理解し対応している。	利用者の嗜好を取り入れた献立を作成している。調理・盛り付け・片付け等を一緒に行い、共にテーブルを囲み、和やかに食事をしている。誕生日には個々の好みの料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の摂取量を把握し、記録している。咽ごみのある方にはトロミをつけたり刻み食にしたり、個々に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりがどこまでできるか把握し、それに基つき支援している。義歯の方は、食事後は入れ歯洗浄剤等で除菌している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のチェック表を使用し、排泄のパターンを把握し対応している。	一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。トイレや洗面台は使いやすく整備され、清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、間食時に水分等を摂り、便秘予防に気を付ける。下剤の服用は医師に相談する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日可能であるが、予定を立てている。予定の日に入れない時は、次の日、又は本人の希望により入浴できる様に努めている。	利用者の体調や希望に合わせて入浴できるよう支援している。入浴による体力の消耗を減らし、気持ちの良い入浴ができるよう取り組んでおり、希望に合わせ同性介助に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、離床と適度な活動を促している。本人のペースに合わせて休息も取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用、用法、用量について、薬局からもらった説明書を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の一人ひとりが、何に興味があるか大切にしている。調理、掃除等職員と行っている。農作物の収穫をしたりもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、外食、買い物に出掛ける機会を設けている。	心身の活性化につながるよう、日常的に敷地内の散歩や、近隣散策に出掛けている。年間行事予定表を作成し、季節に合わせた外出を積極的にして、地域での生活が体感できる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使用については、本人、ご家族と話しながら対応している。預かり金ノートを記入し個々に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があった時は、その都度対応できる様になっている。年賀状等、利用者の作品をご家族に送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえる様、利用者と共に花や絵を折り紙で作成し、手作りの物を飾ったり、日常生活で撮った写真を貼り出している。	リビングやダイニングには、利用者の作品が飾られ家庭的な空間となっており、夜間帯には利用者の安全の為、2階廊下は監視カメラを設置している。広い庭には花・野菜・木が植えられ、さくらんぼの収穫は利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音楽を日常で流したり、季節の草花等身近に感じられる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、落ち着けるよう家庭的な雰囲気になっています。使用する家具等は自由に持ち込んで頂いています。	各居室には白色の上げ下げ窓を採用し、洋風のおしゃれな印象の窓辺になっている。収納箇所も設置されており、整理整頓され、手芸作品や家族写真を飾り、心地良く生活ができるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリー、エレベーターを使用している。「トイレ」の案内を見やすくし、認識ができない方は、職員が案内する。ウッドデッキがあり簡易に外の空気を感じられる様にしている。		